広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

7月号

平成7年
(1995)

NO.464

町民登山は楽しい！

79歳で大朝日に挑戦

エコミュージアム国際会議 朝日町で開催

フランスや全国から200人参加

平成４年、わが国で初めてエコミュージアムシンポジウムを開催した朝日町。全国各地でエコミュージアムの取り組みが展開されつつある中で、日本エコミュージアム研究会設立を記念し、「エコミュージアム国際会議」が６月２日、３日の両日、朝日町農業団地センターなどを会場に開催されました。今月は会議の主な内容を特集して紹介します。

全国から注目されるまちづくり

エコミュージアムは、約二十五年前にフランスで提唱され、わが国では「生活・環境博物館」として紹介されています。

これまでの博物館と違い、住民が町の良さを知り、よその人にも伝え、住んでいる人が誇りをもち、生き生きと豊かに暮らすためのものです。町の良さを見直し、地域の自然や遺産、文化をまるごと博物館として位置づけ、町民がその案内人（学芸員）であるといった考え方です。

日本エコミュージアム研究会の設立総会も開催

国際会議に先立って、日本エコミュージアム研究会（新井重三会長）の設立総会が開かれました。この日、入会を希望した七十人をはじめ、北海道から九州まで県内外から専門家、研究者、まちづくり実践者など約二百人が参加しました。

はじめに、来賓として出席した清野隆町長から歓迎のあいさつがあった後、新井会長が「全国七十あまりの地域でエコミュージアムの取り組みが展開される中、情報交換の場として全国組織がほしい、という経緯から設立されました。朝日町エコミュージアム研究会は全国に先駆けており、その意味で朝日町こそ設立総会の開催地にふさわしい町である」とあいさつ。

役員紹介のあと、西澤信雄さん（朝日町エコミュージアム研究会代表）を議長として議事に入り、ニュースレター発行や定例研究会開催といった、事業計画と予算案が採択され、わが国におけるエコミュージアム研究の新しい歩みが開始されました。

朝日町では平成元年、全国に先駆け町民によるエコミュージアム研究会が発足。町内の自然や文化などを調査研究してきました。平成三年には、まちづくりの理念にエコミュージアムが取り入れられ、平成四年にはわが国初の国際シンポジウムも開かれました。

朝日町のエコミュージアムを理念としたまちづくりが、全国的に注目されているのです。

アラン・ジュベール氏（フランス）
朝日中学校で講演

今回の国際会議に参加のアラン・ジュベール氏より、「フランスのエコミュージアム」について、朝日中学校でも講演していただきました。アラン氏の講演の主な内容は次のとおりです。

「エコミュージアムを進めているフランスのバスセーヌという所には、セーヌ川が流れています。エコミュージアムでは①地域の研究②地域にある遺跡・遺産の保存・展示③教育の三つの活動をしています。このエコミュージアムで、地域にある文化・遺産を保存することにより、住んでいる人が自分の地域の歴史などが理解でき、観光客もよく分かるようになります。研究では農業や産業のこと、川や船のこと、例えばお酒とかワインなど地域の名物であるもの、他には考古学的な研究もやっています。昔、靴やパンを作っていた古い建物をはじめ、風車や農場の小屋、教会などを十五軒ほど保存しています。そこには地域の写真やビデオ資料などが展示されています。このバスセーヌという所は、朝日町と同じくリンゴが収穫できますが、作り方や品種などを説明してくれる『リンゴの家（アップルハウス）』や、セーヌ川を解説してくれる博物館もあります。それらの展示物を学校にもって行き説明したり、昔話などを地域の人に教えたりしています」と、全校生徒三百六十九人に語りかけました。

「朝日町に来ての感想は」の生徒の質問に答え、アラン氏は「三年前に朝日町に来たとき、歴史的施設や自然環境などエコミュージアムに適しており、素晴らしいエコミュージアムになるだろうと感じた。朝日町でエコミュージアムが取り上げられたことは大変うれしく、これからは、朝日町とバスセーヌの交流に頑張りたい」と感想を語られました。生徒からは「エコミュージアムは世界的に広まっていますが、活動内容はどの国でも同じですか」といった質問もだされ、「フランスでは地域の歴史を一番大事にしていますが、日本やカナダでは、まちおこしや地域の住民とのかかわりを大事にしています」と答えられました。通訳のメリル・デイヴィスさん（イギリス）は、「アランさんが朝日町に来たのだから、次はあなたたちがフランスに行く番です。ぜひ外国のエコミュージアムを見に行ってください」と激励。生徒たちは目を輝かせていました。手づくりのフランスとイギリスの国旗を演壇に飾り、大歓迎した生徒たち。アラン氏からはバスセーヌのマップやパンフレット、はがきをプレゼントされました。

講演を聞いた生徒会長の鈴木陽彦（はるひこ）君（大隅）は「エコミュージアムの活動内容が分かったと同時に、何げなく生活している朝日町の環境が、すばらしいものだということを再確認した」と語っていました。これを機会に生徒たちも、ふるさとを見直す学習を深めてくれることを期待します。

重要なボランティアの役割

☆レンナート氏&ピーター氏（スウェーデン）

レンナート氏とピーター氏の掛け合いが楽しかった。彼らの住むベルスラーゲンは、2000年前から製鉄があり、製鉄の歴史・遺跡・遺産がベルスラーゲン・エコミュージアムの中心のようだった。

ここには、とてもすばらしい遺跡・遺産があるが、それよりもボランティアの人々が重要な役割をしているということが心に残った。私たちのエコミュージアムでもボランティアの存在は重要な問題であろう。またベルスラーゲン・エコミュージアムは、この地域に住んでいる人がつくった博物館で、住民が使う博物館であり、経済的なことより住民が使うところとして考えているということはすばらしいことだと思う。そして、今まではコアがなかったが、それぞれのサテライトで、そのサテライトの説明とエコミュージアムの説明ができるようにしているということは理想的である。

そして、最後にピーター氏がプレゼントしてくれた、

「A Future From The Past―過去によって将来がある―」

という言葉を心にとめて、わたしたちのエコミュージアムを進めて行きたい。

視覚的な環境整備も大切

☆アラン・ジュベール氏（フランス）

「エコミュージアムでは人間教育が重要である。プロジェクトのリーダーは地域に根ざした有資格者であり、地域から認められる人で、ボランティアと上手に接することのできる人間であることが望ましい。それは、協会の運営のほとんどがボランティアによって営まれている点にある。エコミュージアムの役割は、展示物の収集、伝統的な技術や物の保存と併せ、現在の生きた展示の必要性を語っている。本来の姿そのままに、生きている現状の展示が肝心だという点と、各サテライトの整備には、電話線や電線を取り除くなど視覚的な嫌悪感を取り除くための、環境整備も重要である。

これまで25年、エコミュージムの概念を説明するだけで10年経過してしまった。遺産の形の見極めが大事であり、住民の活動のおかげで、現在のエコミュージアムがある。《民主主義と同じく、エコミュージアムも決して到達しない理想である。アジアでは、新たなタイプのエコミュージアムが創設されると思う。》」という素晴らしい講演をいただきました。

朝日町でアジアの、しかも朝日町ならではのエコミュージアムの在り方を追求していかなければならない。

（以下のページの記事は、当日発行の国際会議速報より一部転載しました。）

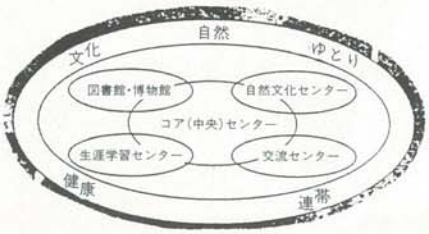
日本型エコミュージアムの未来

☆新　井　重　三　氏

日本エコミュージアム研究会の会長である新井重三氏の記念講演は、初めて学ぶ人にも分かりやすい内容だった。この講演でわかったことの一つに、エコミュージアムという語源は、ギリシャ語のオイコス（家・家族・家計）にあり、単にエコロジー（生態系）とミュージアム（博物館）をあわせた造語ではないことがあげられる。またエコミュージアムは、フランスのアンリー・リヴィエール氏によって博物館界に生み出されたわけだが、1960年から70年頃、中央集権から地方分権に移行するという時代背景があり、その地方分権の最初の仕事として、全国に25の地方自然公園ができるが、内15がエコミュージアムであったという。

そしてエコミュージアムの理念として重要なことは、二重入力方式(行政の力＋住民の力)が原則であるということ。エコミュージアムは、今までのように、立派な箱物の博物館に遺跡・遺産を収集することではなく、現地に保存・展示型の、住民本位の開放された博物館であることもポイントのひとつであろう。

朝日町の構想



生まれた子どもに自信をもたせるために

☆ドミニック・リヴィエール氏（フランス）

ドミニック・リヴィエール氏の講演で印象に残った言葉が二つあった。それは、「エコミュージアムとは、ひとつの鏡と同じで、自らを見つめ、知るためのものであり、地域の鏡でもある」ということばと、小学生に対して「もし君が博物館に来なくても、博物館が君のほうへやってくる」だった。この言葉は、エコミュージアムを実践して行く姿勢として大切なことではなかろうか。

彼によると、15年前は、さまざまな遺産の調査・コレクションをすべき時期で、住民の証言や景色などが活用されるべき時期であり、長い間見捨てられたアイデンティティを見つける時期であったらしい。

そして、その地域を活用させ、そこに生まれた子どもに自信をもたせるために、ブルゴーニュ地方にエコミュージアムが生まれた。まさしく、今の朝日町がその時期である。欲をいえば、ドミニック氏の15年間に及ぶ貴重な経験などをもっと知りたかった。

Bコース　大行院最上家～名勝大沼の浮島～ワイン工場

大行院最上家では、第51代当主の最上敬一郎氏が一行を出迎え、当家の由来や大沼の歴史などについて説明。最上家に伝わる数々の古文書や、弁慶の笈、ウワバミのミイラ、緋綱代の駕籠などを紹介しながら、歴史と文化を守ることの大切さ、多くの人々に支えられて今日があることなどお話があった。浮島稲荷神社の境内では、最上俊一郎氏と菅井進氏がそれぞれの班で説明。参加者たちは、護摩壇や1621年に最上家信が寄進したという二基の石灯籠に、歴史の深さを感じ取っていた。

浮島では、一行を待っていたように大小の島が浮遊し、訪れた参加者たちは大感激。白田隆氏の語りにも「地元の人が方言でとつとつと説明してくれたことに胸を打たれた」との声が寄せられた。

ワイン工場では、産業とエコミュージアムとのかかわりを語り合いながらの工場見学。最後に、試飲コーナーでの冷たいワインのサービスに喉を潤すなど、大満足のワークショップとなった。

参加者の声

東北芸工大　飯田恭子さん　佐々木由佳さん（Bコース参加）

エコミュージアムを知らないで、おもしろそうだったので参加。人間の文化すべてをアピールすることがエコミュージアムだと思った。各々の町において、違いがあると思うけれども、気取らない姿で、観光ではなく一つの方向に目的を同じにするということが必要だと思う。建築関係の学部にいるのだが、山や水に目が行く。すばらしい自然だと思う。設定された型通りの美しさでなく、小さな発見がたくさんできた。町の人と会って、心温まるあいさつをされ自分の子供のころの（岩手県出身）近所の人の温かさを思い出させてもらった。

私（飯田さん）は関東出身なので、自然が多く残っていることをとてもうらやましく思った。

朝日町の自然・文化はすばらしい！

町内めぐりに大満足の参加者

Aコース　重文佐竹家住宅〜立木小学校〜ビーズファーム

ビーズファームから出発の班と、佐竹家からの班に分かれてワークショップが始まった。佐竹家では、鈴木治郎先生と家主の佐竹さんから説明を受けた。参加者は実際に居住していらっしゃるということへの驚きと、維持の大変さを感じていたようだった。また、家のわきに置かれていたヨシの束に目を止め、それがアナコバチの巣で、そのハチをリンゴなどの受粉に使うと説明を聞き、「これこそ発見の小径だ」と喜んでいた。

立木小学校では、いろりのある図工室やイワナを育てているところ、全校生徒11人の授業風景などを見学して来た。昨年まで勤めていた佐竹伸一先生は、「イワナを養殖し、放流することは不本意だが、上流のダムなどによって生態系が壊れ、復元しえないので行っている。そしてこのことが環境問題を考えるきっかけになればと思ってやってきた」「ここの児童一人一人が学芸員だから、少しでも環境に興味を持ち話ができるように、山や花の写真を飾ったのだ」といっていた。よい環境とよい先生にであえた子供達がとてもうらやましかった。

ビーズファームでは、ガラス越しのミツバチの生活に興味を持つ人が多かった。安藤さんは「ここにドームを構えたのは、おじいちゃんが住んでいたからということもあるが、ここがハチ蜜の森の入り口であるということと、ここの自然を見とどけていたいからだ」と言い、「自分がやっている蜜ろうは、地域ならではの自然があるから成り立つ職業である」と語る。エコミュージアムのサテライト第一号といってもいいビーズファームはとどまるところを知らない。

参加者の声

東京都　浅野智子さん（Aコース参加）

10年位前から朝日鉱泉に来ていたが、そこの往復だけだったので、もっと朝日町の文化や人々を知りたいと思い参加した。朝日町は向学心がある人が多く意識が高いという印象を受けた。立木小学校で教育を受けた子供達が、どんな大人になって行くのかとても楽しみである。シンポジウムは、質問コーナーがあればよかったのにと思った。

東京都　菅井敏之さん（西町出身・Aコース参加）

毎年3回以上朝日町に帰郷していますが、佐竹家を見るのもビーズファームを見るのも初めてでした。自分の知らなかった朝日町の魅力を体験でき、本当にうれしい2日間でした。

Cコース　朝日町農業研究所～世界のりんご園～お薬師様

地図で見ると、朝日町にのみ駅がないという点に興味を持った参加者は、「朝日町は終着駅の無い発信駅である」と言う。集合の新たな発信地となるための地理的に恵まれた環境という見方もできるのではないか。世界のりんご園やりんご資料館はまさに発信源となって欲しい。研究所が町と農協の共同運営というのも、外に例を見ない。《水の波紋》のように、駅の無い朝日町が水の波紋を両町の終着駅に届け、さらに全国に波及するそんな町になれると感じた。前田沢、新宿集落の古くてしっかり修理された、トタン屋根に葺き替えられた重厚な屋根をながめつつ、「ぞろぞろと大勢で、この地区の方たちに迷惑ではないかしら」と心配している参加者もいた。

古い旧街道に焦点が当てられ、町外の人の目に触れることは、この歴史ある地区に暮らす住民の誇りでもあり、再確認できるきっかけともなったようだ。お薬師様はじめ沢山の遺産の地区挙げての管理と文化財の修復は金銭的にも厳しさはあるが、しっかりと朝日町エコミュージアムのサテライトの役目を担っている。今から何が始まるの、という様子で眺めていた地区の住民とあいさつを交わしながら、道端の草を摘(つ)みながら、のんびりした歩調で、心地よい風に救われながら、徒歩のコースを無事に終了することができた。

参加者の声

東京都　卜部元喜(うらべもとよし)さん（Cコース参加）

新宿の街並みは塀やブロックも少なく、色とりどりのお花やリンゴの木が植えてあり、とてもすばらしい散策コースですね。町の人の潤いを感じました。どうもありがとう。

千葉県　中田瑞恵さん（Cコース参加）

朝日町は親身で明るい人が多く、きれいな所で、これから発展しそう。今度花の咲いている時や、リンゴのなっている時を見てみたい。普段来た時もガイドしてください。りんご温泉にも入りたかった。

町民100人参加し 自分の町に誇りと自信

町民を対象として企画された特別分科会「朝日町のエコミュージアムの現状とこれから」は、朝日町の将来に期待をよせる100名をこえる参加者で超満員でした。

コーディネーターの渋谷企画商工観光課長から、分科会に先だちエコミュージアムとは何か？そして朝日町がこれまでどのように取り組んで来たかについて、わかりやすく説明が行われました。つづいてパネラーの安藤竜二さんは、ビーズファームを中心に自分が実践しているエコミュージアム活動の様子や、エコミュージアムの考え方についてスライドをまじえ紹介しましたが、自分の町を良く知り体験することが、エコミュージアムの町づくりの基本であることを、強く訴えました。

清野寅男さんは、空気神社建立にいたるまでの経過をくわしく説明し、空気神社をひとつのきっかけとして、環境を大切にする心を養ってほしいと呼びかけました。

小関典子さんは、F21ゴミとリサイクル活動の中で学習したことを中心に、主婦の立場からエコミュージアムとのかかわりについて報告しました。子供たちにこの美しい朝日町を残していくには、ゴミ問題を解決しなければなりません。大きな問題ですが、一人一人の心がけで解決できるということを、自作のビデオをまじえて強く訴えました。100名をこえる参加者も、エコミュージアムに対する意識を新たにし、分科会会場を出るころには、参加者の目は、自分の町を誇りに思う自信にみちてキラキラ輝いていました。

エコミュージアムは地域を愛する人をつくる

全体会議が中央公民館で行われ、各分科会で話し合われた内容について発表されました。その中で、エコミュージアムの目的は「地域を愛する人をつくること」にあることや、「人々が地域で生き生き豊かに暮らすためのもの」であること。自分たちの地域をよく見つめてみると、すばらしい素材がたくさんあることを、住民に気づかせることが大事ではないか。エコミュージアムという名称や型にこだわる必要はない。エコミュージアムとして施設があるからとか、ないからではなく、要は地域を豊かに活性化させるために、まちづくりにエコミュージアムの考え方を取り入れ、地域の力でもっと発想していくべきではないか。そのための情報を集めたり、交換しあう場として、日本エコミュージアム研究会が設立されたのだから、これを活かしていくことが大事である。といった意見が出されました。

町民登山で大自然を満喫

夏山シーズン本番を迎えた七月二日、町民登山が行われました。九年ぶりの開催とあって、楽しみにしていた小学生から七十九歳までの町民、約五十人が参加しました。午前四時に役場前を出発。ブナ林などの大自然を満喫しながら、雄大な大朝日をめざしました。

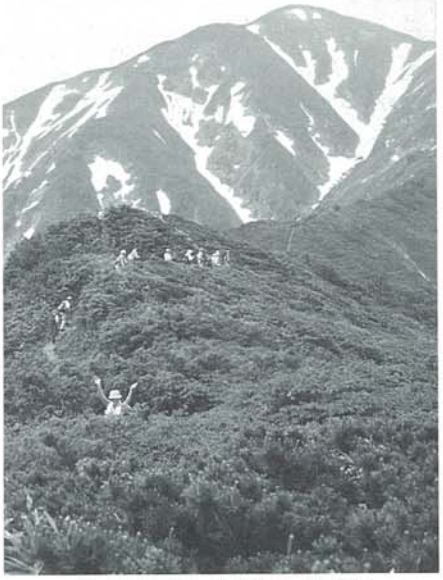
つり橋を渡っていよいよスタート

美しいブナ林の中はおいしい空気がいっぱい

足場に気をつけて！小朝日はもう少しだ！

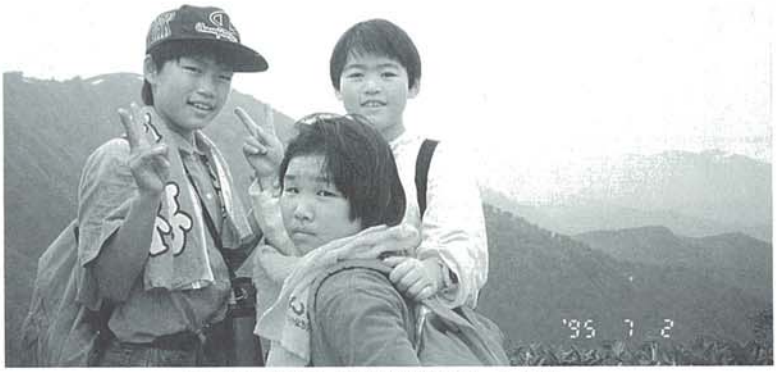
鳥原の展望台で記念写真で～す

大朝日に登り満足そうな参加者たち



雄大に広がる大朝日をめざす

ウワー雪だ！銀玉水の雪渓に大喜び



さわやかな汗も心地よい仲良し３人組

大朝日の山頂での昼食は格別！

先頭は山岳会会長の花山さん

町議会

6月定例

六月定例町議会が六月十二日から十四日まで開会されました。一般会計補正予算や条例改正など十六議案が上程され、すべて原案どおり可決されました。町政報告の主な内容は次のとおりです。

町政報告

【総務課】

平成六年度の決算状況は、収入済額五十七億八千六百万円、支出総額五十五億四千二百万円で二億四千四百万円程の剰余金となる見込みです。当初予算及び補正予算で、既に計上済み分などを差し引きますと、残額は二千万円弱になる見込みです。

株式会社朝日町産業開発公社では、五月十七日株主総会を開催し、商法改正に伴う組織変更を提案し、有限会社に変更することが決議されました。

六月二日に町づくり資金の寄付金として、東京在住の飯塚正司氏より、現金百万円のご寄付を戴きました。

【企画商工観光課】

朝日町総合開発基本構想では「エコミュージアムを基本理念」としたまちづくりを目指しておりますが、より具体的に推進するため、調査、研究する機関として、研究員十名を委嘱し、「朝日町エコミュージアム研究機構」を五月二十四日に設置しました。

エコミュージアム国際会議を六月二日、三日開催したところです。

商工関係でありますが、円高にもかかわらず、各企業の経営努力でこの不況を何とか乗り越えようとしており、景況もまあまあであるとの事で安堵したところですが、町に対しての要望もあり、前向きに検討し実施してまいりたい考えです。

朝日連峰登山バスは七月二十四日から八月十四日までの運行を、朝日町観光協会と山形交通で契約を締結しました。

【建設課】

町道六路線の改良舗装を予定しており、六月中に四路線、七月中に二路線を発注予定です。

合併処理浄化槽については、繰越明許分二十基、平成七年度分四十五基、併せて六十五基の内十五基が施工中です。

国道二八七号和合バイパスは、移転先が確保された家屋等の用地買収補償を優先し、岩坂橋から和合方面の農地等の用地買収を開始しました。懸案の明鏡橋工区については、六月下旬に地元説明会を開催し、その後に路線測量を開始する予定と伺っています。

【農林課】

本年度の転作等実施面積は一四七ヘクタールに達すると見込まれますので、国より配分された他用途利用米一四・七トンと転作面積四ヘクタールを、地域間調整の「出し手」として対応する考えです。

朝日自然観コテージ村に木造一部二階建て、一三六・六三㎡のテレワークセンターを、完成期限七月二十日として建設中です。

大規模林道朝日・小国線については、自然環境や環境保全の問題で、環境影響評価（アセスメント）を一カ年をかけて実施するという情報を得ております。この結果、保全工事は施行されますが、開設工事は平成八年度一杯は休止となる見込みです。

【住民課】

本年四月一日現在の人口は一〇、〇四七人、世帯数は二、五二五世帯となっており、前年度と比較し人口は一五三名の減、世帯数は二世帯の増となっています。

宮宿住宅団地については四月二十日、十八名の分譲者へ土地の引き渡しを行いました。大谷住宅団地は六月現在七区画が未分譲ですが、PR等を積極的に行い、全区画分譲に向け努力いたします。

結婚、後継者対策として、仙台市内の独身女性との交流会を実施しております。昨年の交流会で知り合ったカップル二組が、婚姻成立しています。

【健康福祉課】

在宅福祉関係では、今年よりホームヘルパーを一名増員し充実を図っています。保育料については各階層ごとの調整を図りながら、引き下げを行っています。

ふれあい荘の竣工式を七月十二日に、入所を七月十八日から開始し、九月中には定員五十人の入所を完了したいと思っています。デイサービス、ショートステイについては、八月から実施するよう計画しています。

【税務課】

平成七年度分の町税賦課事務は、五月十六日付けで各納税義務者に発送し、完了いたしました。前年に比較して、給与所得は三%の伸び、農業所得は三三

認定農業者　68人

認定書を受け取る認定農業者

農業経営改善計画認定書交付式が６月29日、農業団地センターで行われ、68人の認定農業者一人ひとりに、認定書が手渡されました。経営効率化、大規模化などの意欲ある農家を援助するもので、認定農業者は低利な融資や税制上の特例などが受けられます。町では農業経営改善支援センターの窓口を農林課に設け、認定農業者を支援していきます。

松程トンネル貫通式
供用開始は平成8年

全長387mの松程トンネル工事の貫通式が６月12日、現地で行われました。松程側から掘削してきましたが、この日、見事に貫通し、関係者約五十人が出席し貫通を祝いました。

今後、道路等の工事を進め、供用開始は平成８年の予定です。

「簡易保険」や「国民年金」は町づくりに活かされています。

郵便局の簡易保険や国民年金の積立金は、ふれあい荘の建設や医療機器の購入など、公共事業に役立っています。

平成六年度の融資は次のとおりです。

簡易保険還元融資

・ふれあいの里整備事業	4億8,000万円
・果樹選果施設整備事業	1,250万円

国民年金還元融資

・超音波診断装置	390万円
・自動血球計算装置	330万円
・他医療機器３件	140万円

完成した「ふれあい荘」

町税100%完納（平成6年度）

平成６年度分の町税は、集合主税分および普通徴収分ともに、100%完納となりました。区長さんはじめ、町民の皆様のご理解とご協力の賜であり、深く感謝申し上げます。

%の伸びとなっています。町民税は一一%の伸び、固定資産税は三%の伸びとなりました。

今年度の地籍調査は三中、長沼地区の一部、二百五十五ヘクタールで実施しています。

【管理課】

小学校の学級数は五十二学級、児童数は七百二十三名で、前年に比較して学級数で一学級、児童数で二十九名の減となっています。大沼分校の外構工事は、六月二十日完成の予定です。

【生涯学習課】

旧西部公民館跡地については、西部コミュニティ広場として、トイレ、芝生広場、遊具、駐車場等の整備を計画しており、現在設計を委託し、交付金の内示を待っているところです。

【朝日自然観】

交流宿泊施設のコテージ建設については、七月二十日の工期で工事を進めています。空気まつり期間中には、昨年を上回る三千人の来観者でにぎわい、特に白倉特産物生産組合と共催の山菜まつりは、大盛況で好評を得ました。

【朝日町立病院】

常勤医師の赴任に伴い、医師住宅を整備する必要がありますので、六月中に入札をすべく準備を行っています。

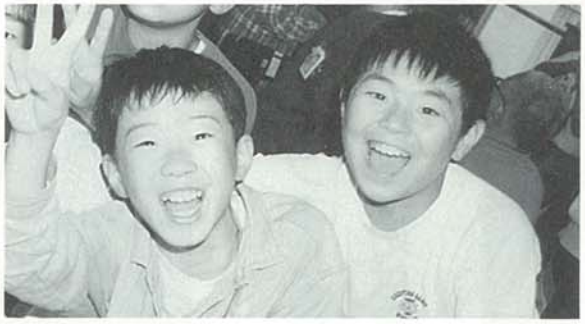
平成六年度の決算状況は、事業収益が七億二千八百五十六万四千七百四十一円、事業費用が七億二千二百三十一万五千百五十一円となり、六百二十四万九千五百九十円の利益を生じました。

【水道事業所】

平成六年度の決算見込みは、収益的収支において一千九百十七万四千円の赤字決算となる見込みです。

先月五月分より水道料金を値上げしていただき、なお一層町民の福祉を主眼として、安定的に安全でおいしい水の供給に努めてまいります。

みんなのひろば



すてきな仲間たち
あめっかぜ

やさしさを歌えば風になる

朝日町の自然や人生などをうたったオリジナル曲を中心に、小学校ミニコンサート・ふたば保育園の園歌制作など、地域に根差した音楽活動をして19年になります。今では、障害者の人達と一緒に歌う機会が増え、寒河江・白鷹・秋田などでのコンサート、果ては韓国で行われたアジア障害者音楽祭へ出演するなど、音もだちの輪はどんどん広がっています。

現在は、世界障害者車椅子バスケ大会や国民文化祭（県代表）などに向けて練習中ですが、どんな小さな会場でも手軽にコンサートができるようにと機材も購入し、皆さんと音もだちになれることを楽しみにしている〝あめっかぜ〟です。

すてきなカップル
なかやかさん新婚さん

中沢／堀　裕一さん　仁美さん

仁美さんが働くウエルマートの前で、焼き鳥を焼いていた裕一さんは、仁美さんの大きな瞳に一目惚れ。彼女のことばかり気になって、焼き鳥を数十本真っ黒こげにしちゃったとか。その日の仕事が終わると、まっすぐ彼女の家に行きアタックしたとのことです。仕事に自信と誇りを持ち、情熱あふれる裕一さん。そんな彼に仁美さんは、焼き鳥のにおいにつられた訳ではないが、すごく好感をもったとのことです。今何よりの楽しみは、朝日川に毎朝つりに行き、とりたての魚を仁美さんに食べてもらうこと。それに数日後にひかえた出産とのことで、男の子が生まれたら絶対焼き鳥屋にすると、意気込む新米パパです。夢は全国の楽しいイベントに家族で参加すること、と焼けぐあい満点で、いい味のおふたり。かわいいひよこちゃんが待ち遠しいですね。

せんせい　わかば保育園　あ・の・ね

園児　（得意そうに）「せんせ！きんなビデオ二つかりできた」

保母　「二本もかりてきたな、いいなー。何と何のビデオかりてきたのかな？」

園児　「んねくて、きんな見だべ、まだ今日かえってから見んべ、んだから二つ！」

保母　「？・？」

ひとことトーク

ふれあい荘で頑張っています

～お年寄りに楽しく快適な生活を～

鈴木　宏彰さん
（松程）

福祉の仕事を意識するようになったのは中学生頃からです。家族や親戚の年寄りに囲まれて育ったせいか、将来はお年寄りの役に立つ仕事をと考えるようになりました。

これまで、青森の大学で福祉を学んだ後、福島の児童福祉施設で五年間働いてきましたが、やはり地元で老人福祉の仕事をしたいと思い、妻と一緒に帰ってきました。

新しい施設で、初めての仕事とあって不安もありますが、これまで勤めていた施設の時のように、謙虚な気持ちを忘れずに、利用者の方々と気持ちが通じ合えるように努力したいと思います。そして何よりもお年寄りの方々が楽しく、快適な生活を送れるように、きめ細かいサービスを心掛けていきたいと思います。

みなさんよろしく

「わたしの自慢の笑顔で～す」
熊谷千春ちゃん（２歳・新宿）
（両親は克巳さん・由美子さん）

「ぼくお父さんに似て美男子さ」
菅井崇允ちゃん（２歳・小原）
（両親は芳弘さん・幸子さん）

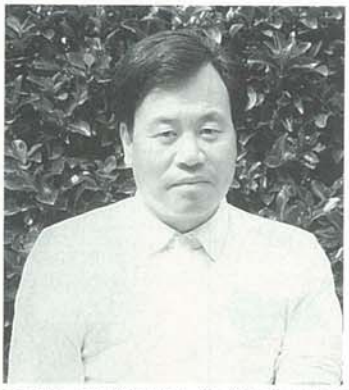
「これうまいんだよなあ」
白田詩織ちゃん（１歳・大谷一）
（両親は和彦さん・友子さん）

「ぼく祭り大好き！」
村山和輝ちゃん（１歳・大町）
（両親は辰雄さん・幸美さん）

おじゃまします 社長さん

光陽シューズ株式会社（松程）

朝日町工場で靴の上の部分を製造（写真上）



工場長　武田留三さん（白倉出身・大江町）
昭和19年７月30日生まれ
趣味　山菜採り・山が好き

▼会社では、何をつくっているのですか。

紳士靴の製造で、朝日町工場では靴の上の部分をつくっています。それを柳川と貫見工場で一足の靴に完成させ、一つ一つ箱詰めにして本社（東京）に送ります。

▼従業員数や販売先など、会社の概要を教えてください。

私は白倉出身なので、地元のために少しでも役立ちたいと、昭和五十六年十月に朝日町工場をつくりました。現在従業員数は十一名で、貫見工場など三工場を合わせると六十五名です。

一日約五〇〇足仕上げているんですが、主にダイエーやイトーヨーカドーなどの、大手スーパーに出荷しています。

▼会社で自慢できることは何ですか。

社員のことを考えて、体がじょうぶで働きたいという要望があれば、何歳までも働いてもらっています。

▼工場長がいつも心がけていることを教えてください。

社員との対話を常に心がけ、働きやすい職場づくりに努めています。全国の人々に、心地よく足にフィットした靴を身につけてもらうため、心をこめて製造するよう心がけています。

大谷小学校　明鏡荘を慰問

入荘者と交流を深める

大谷小学校の四年生から六年生までの全校児童八十一人が、明鏡荘を訪れ、奉仕作業をしたり入荘者と交流を深めました。

毎年開催しているもので、秋には一年生から三年生までの、移動学芸会も行っています。

この日は、食堂や集会室のテーブルや床をふいたり、廊下のガラス磨きをし、一時間足らずでピカピカに。入荘者は「ご苦労様、ありがとう」と笑顔で児童に声をかけていました。

その後おこなわれた交流会では、児童たちが「おて玉をして遊びましょう」「おばあちゃんは何歳ですか」と話しかけ、入荘者と一緒に折り紙やあや取りなどをしたり、肩をもんであげたりして楽しく過ごしました。

入荘者は「ほんとうの孫のようです」と大喜び。児童たちも「話をしたり遊んだり楽しかった」と満足そうな様子でした。

水本／
高橋　淳くん
（水本小３年）
おじいちゃん
栄助さん
（61歳）
おばあちゃん
きみよさん
（61歳）

ぼくのおばあちゃん

ぼくのおばあちゃんは、とてもやさしいです。ぼくがほしいものは、なんでもかってくれます。また、いっしょに野きゅうをしたり、畑にさん歩に行ったりしてくれます。

「おばあちゃん、ぼく、お母さんの絵で、お母さん賞をとったよ。」

と教えたら、

「よかったね。」

と言って、お金をくれました。大すきなおばあちゃん。いつまでも元気でね。

―淳―

図書券が当たる 広報クイズ

今すぐ応募しよう！

〔問　題〕

問１　左の写真の地区名は？
A中沢　B四ノ沢　C杉山

問２　町民登山が行われたのは七月の何日？
A２日　B９日　C16日

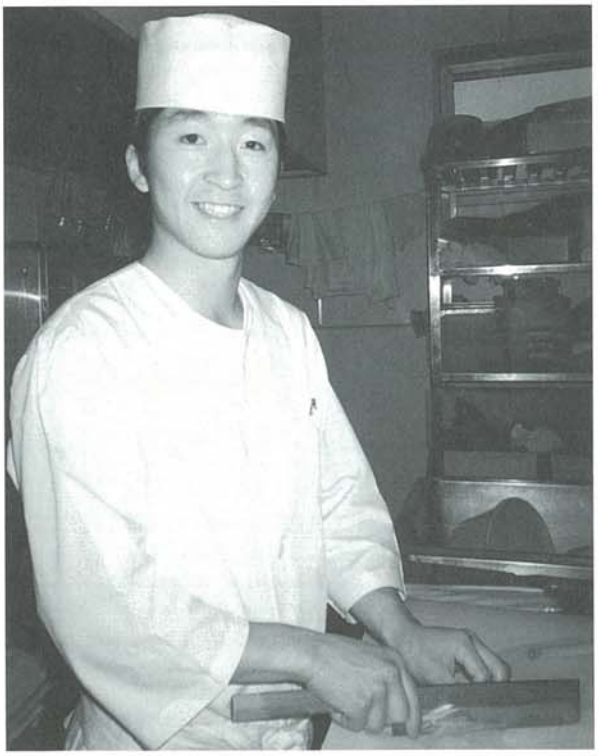
問３　参議院議員通常選挙の投票日は、七月の何日？
A23日　B26日　C30日

【応募方法】（7月31日締め切り）
ハガキに答えを記入し、住所・氏名・年齢・電話番号を書き添えの上、宮宿一一一五朝日町役場内「広報あさひまち」まで。正解者の中から抽選で3名の方に、図書券をプレゼントします。

【先月号の当選者】阿部静江さん（松程）・渡辺薫さん（古槙）・佐竹忠さん（常盤）

青春インタビュー

〈プロフィール〉
布施　順さん（23歳）
助ノ巻・牡羊座・A型
朝日自然観勤務



Q趣味・特技は
スキー、登山や釣りなどアウトドアスポーツかな。今は、最近始めたゴルフに夢中です。

Q休日の過ごし方は
ほとんど川に行きます。寒河江川でサクラマスを釣りたいのだけれど……全くダメです。四月に赤川河口で、57cmのサクラマスを釣ったんです。自分でさばいて食べた味は最高でした。

Q今、してみたいことは
自動二輪の免許を取って、バイクを買って、行きあたりばったりの旅に出てみたい。九州にも行きたいなあ。

Q理想の女性と結婚は
全く考えていませんが、やさしくて、思いやりがあって、よく気のつく、包容力のあるお姉様タイプの女性がいいですね。でも、結婚は一人前の板前になってから……考えます。

Qあなたが町長になったら、何をしますか。
電線を地下にうめこみ、電柱のない町にしたい。エコミュージアムの町づくりを進めていく上でも必要だと思う。美しい街並み、景観になればいいなあ。

子供のための自然教室と朝日町

写真家　姉崎一馬氏

自然と人とのかかわりを伝える

私の職業は自然の写真を撮ることです。特に樹木や森林を中心に森の生き物なども写しています。ときには様々な国へでかけて、その国の変わった森や林を歩き回ります。

そうして、各地を回って写した森の写真は自然の図鑑や百科事典、写真集などに使われます。この仕事は自然が好きということだけでなく、自然と人との良い関係を理解し、それを伝えたいと考えていくことが基本となっています。

そのために自然の仕組みをよく観察して、人間は自然とどんなふうに付き合っていけばいいか、いや、自然に人間はどう合わせていけばいいのかを知らなければなりません。

自然教室の開催

こうした考えにいたるまでには、それよりずっと前からボランティア活動をしている子供を中心とした、自然観察会や自然教室を開催していることを書かなければなりません。

特に和歌山県の山のなかの廃校になった小学校の校舎で、毎年夏十二日間の自然教室を十九年間続けてきたことは、私の生活や自然への考え方の基本となってきています。和歌山の前後に一～二年ずつ長野県や新潟県でも自然教室を開き、また、一ッ沢や白倉でも何回か教室を開催させていただくことができました。廃校や廃屋は自然と人間の関係のよく見えるところです。

そうした使われなくなった建物での自然教室の生活はかなり不便です。それを様々な工夫で使えるようにしていくこと、考えることで自然とのつながりを理解することができます。

水をくむ・食べ物を作る・洗い物をする・洗濯物を干す・掃除をする・木工や染色、織物、陶芸、保存食を作るなど、ものを造ること。また、自然の絵を描いたり、草や木のツルでカゴなどを造る伝統工芸なども大切なものです。

現代では、電気や機械力でなんでも解決しようとしてしまうことを、全て人間の手仕事として経験してみる。この体験が生活の原点を見直し、その上で本当に必要なエネルギーや、機械力を充実させることが豊かさだと思うからです。残念ながらこの点で日本はヨーロッパなどの先進国には遠く及びません。

朝日町は最良の地

そんなことを自然教室のプログラムのなかに組み込みながら、いつかは理想的な自然条件の土地で「自然教室に適した建物」を建てたいと、ずっと考えていました。

日本各地の土地を歩いてきた私にとって、日本の代表的な気候風土で理想的な場所は関東の北部、長野県、新潟県などの中部地方、東北の南部と考えていました。夏はそこそこに暑く冬は雪が降る。そして春の新緑と秋の紅葉、山菜やキノコ、木の実などの山の幸に恵まれる落葉広葉樹林の山があり、そこから流れる清らかな川がある。そんな条件はかつての日本では当たり前のことでしたが、自然破壊の進んだ現在ではまれなことです。各地の森を撮影しながら探し回り、聞いてみましたが、なかなか見つけることはできませんでした。

そんななか二十年以上通い続けている朝日連峰があり、町勢要覧など町の仕事もさせていただいた朝日町で、町の皆さんのたくさんの御助力で立木の藁田屋敷に、自然教室を建て始めることができました。すぐ下を朝日川が流れ、目の前が暖日山です。周りには変化に富んだ自然があります。

朝日町にはよそからの人間を温かく迎えてくれる気風があります。これは大変貴重なことだと思います。

町に根をおろして

自然教室には全国から様々な年齢の子どもたちが参加し、ブナの森の素晴らしさや自然にめぐまれた朝日町の豊かさを、体験していくことでしょう。

しかし、なにぶんにも私たち指導に当たる大人たちも子供たちも、大部分は自然のない場所の人間で、少しの自然、たとえそれが雑草であったとしても貴重に思えるのです。自然教室の建設にあたっては、トンチンカンな事柄がたくさん見受けられることとは思いますが、どうか温かく見守り、ご意見やご指導をお願いしたいのです。

この八月には本格的な第一回の藁田屋敷自然教室を開く予定です。また、十月には引っ越しと同時に、町民の一人に加えていただきたく、よろしくお願いいたします。

今年春のわらた屋敷教室（左端は姉崎氏）

町の文化財シリーズ

大行院笈（おい）

総高七五cm
横幅六一cm
奥行三三cm

大沼大行院に保存されている。修験者などが仏具・衣服・食器などを入れ、背負ったこの笈は、檜（ひのき）を用い手斧（ちょうな）けずりによるものである。構造は上部観音開き、下部羽目外し板になっている。一部にうるしが塗ってあり、羽目外し板裏に「武蔵」と判読される墨跡が認められる。

昭和四十五年五月二十五日、朝日町有形文化財に指定された。

ばあちゃんの知恵袋 ③

ウリや糸かぼちゃのかす漬け

夏に収穫したウリや糸かぼちゃをかす漬けにして、秋には美味しくいただきましょう。

＝材　料＝
ウリ３～５個
糸かぼちゃ〃
塩　適宜
かす　２kg
赤砂糖　１kg

①ウリは半分に割り、糸かぼちゃは皮をむいて半分に割り種を取る。ウリは若い方が、糸かぼちゃはよく実った方が歯ざわりがよい。
②種を取った部分がかくれるほど塩をして上向きに重ね、押しぶたをして重石をする。古かすにつけてもよい（下漬け）。
③秋頃、本漬けの前に②のウリや糸かぼちゃを取りだし、その分量の倍の熱湯をたっぷりかけて、そのまま冷まし塩抜きをする。塩の抜きかげんは漬物より少ししょっぱい位。食べてみてうんとしょっぱい時はもう一度熱湯をかけて冷ます。
④切り口を下にして、ザルに並べてよく水を切る。
⑤かすに赤砂糖をまぜ、その中に漬け込む（本漬け）。
③で塩を抜きすぎた時は、かすに塩を足す。このかす床は来年の下漬け用の塩のかわりに使う為、たっぷり塩をしてとっておく。阿部うめのさん（西原）

各種大会成績

第17回朝日町ソフトボール大会

（６月11日・西部地区総合運動場）

優勝　栄町　２位　大町
３位　前田沢・新宿・四ノ沢

第５回朝日町民グラウンドゴルフ大会

（６月４日・朝日自然観）

男子	優勝	高橋　貞夫（常盤）
	２位	阿部　為吉（常盤）
女子	優勝	阿部あや子（夏草）
	２位	佐竹　英子（常盤）
小学生	優勝	阿部　浩明（今平）
	２位	阿部　真司（夏草）

西村山地区中体連陸上大会

（６月27日・寒河江高校グラウンド）

優勝	菅井　慎也（100m）	13秒０
	布施　晴美（100mハードル）	16秒７
	阿部　貴子（走幅跳）	４m41
	高橋　愛（三種競技Ｂ）	2,152点
２位	土屋　沙織（100m）	13秒６
	土屋　沙織（200m）	28秒５
	高橋　愛（100mハードル）	17秒３
	鈴木　陽彦（3000m）	10分02秒３
	渡辺　津子（走高跳）	1m40
	渡辺　克幸（砲丸投）	10m95
	菅井　若菜（砲丸投）	９m54
	女子低学年400mリレー	56秒３
	（小松沙緒里・若月麻衣・鈴木春菜・清野詔子）	
	女子400mリレー	54秒３
	（佐藤厚子・高橋愛・布施晴美・土屋沙織）	
３位	布施　晴美（200m）	29秒３
	安藤　秀也（1500m）	４分59秒４

西村山地区中体連水泳大会

（６月27日・河北町民プール）

２位	渡辺　浩司（50m自由型）	31秒20
３位	柴田　大輔（50m自由型）	31秒42
	渡辺　浩司（100m自由型）	１分08秒86
	阿部　輝美（100m背泳）	１分28秒90
	菅井　貴子（100m平泳）	１分29秒70

西村山地区中学校総合体育大会

（６月17日・18日、各会場）

優勝　剣道（男子）
　　剣道（個人）白田　明
２位　剣道（女子）
　　ソフトテニス（女子）
　　剣道（個人）大井　次郎
３位　卓球（男子）
　　バスケットボール（女子）
　　剣道（個人）鈴木　祐二・渡辺克幸・清野早苗

■広報あさひまち　第464号　平成7年7月15日発行　■発行　山形県朝日町　■編集　朝日町広報委員会／山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷　豊田太印刷所

こせきのまど

■6月1日～30日届出

すこやかに

（出生届）

区名	出生児氏名	父名
大谷二	白田 真奈美	敏美
舟渡	遠藤 幹士	衛
大谷一	鈴木 夢亜	均
沼向	菅井 文弥	正則
松程	鈴木 友香	敏一
舟渡	佐竹 華織	新一
送橋	渡邉 朝香	正廣
八ツ沼	海野 美里	高志
本町	長岡 祐貴	孝
太郎二	長岡 昭平	紀昭
西町	菊地 唯	勝彦

おしあわせに

（婚姻届）

鈴木芳文	♥	花山祐子	
松程		杉山	
長岡芳徳	♥	松田佳子	
大谷六		河北町	
鈴木秀夫	♥	相座明美	
中沢		宿	
小嶋光広	♥	佐藤美奈子	
東京都		助ノ巻	

やすらかに

（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
大谷四	鈴木幸七	幸七
大沼	白田とみ	幸三郎
西町	武田忠雄	正
白倉	渡邉とみ江	とみ江
大谷三	渡邉菊夫	喜代志
四ノ沢	相座力雄	はるよ
大沼	小林よし	昇
能中	鈴木哲男	文藏
西町	長岡清一	茂利
西船渡	鈴木孝一	多悦

人口と世帯数

●平成7年6月30日現在

人口		10,028（ 0）
	男	4,983（減 4）
	女	5,045（増 4）
世帯数		2,532（減 1）

（ ）内前月比

わたしの作品

〈高砂大学〉

張り絵
柴田　ちよさん（長沼）

水彩画
佐竹　ナカさん（松程）

5円玉で亀をえがく
志藤　栄子さん（能中）

リボン風景画
大高　たけさん（夏草）

参議院議員通常選挙の投票日

7月23日（日）

さあ行こう 伝えよう あなたのメッセージ

■不在者投票の期間は7月22日（土）までです。土曜・日曜日を問わず、午前8時30分から午後5時まで、中央公民館2階展示室で受付します。印かんをご持参ください。

春夏秋冬

編集後記

▼広報クイズの応募に多くのハガキが寄せられています。ほとんど正解者で前回は八十六通の応募がありました。中にはイラスト入りや編集者への励ましの声もあったりで、ほんとうにうれしい。

わが家のアイドルコーナーにもたくさんの応募があり、ありがたく思っています。なお応募の際には、その写真の簡単なコメントをつけていただければ、幸いです。

これからもどしどしお寄せください。楽しみに待っています。（安藤）

広報「あさひまち」は再生紙を使用しています。